

特別展

# 海老原喜之助

—その生涯と作品—



「蝶」1959

1990年12月11日火—1991年1月27日日

開館時間—午前9時—午後5時 入館は1時30分まで

休館日—12/17月・25火・26水・29土～1/3木・7月・13日・14月・16水・21月

入館料—一般個人200〔160〕円 小・中学生100〔80〕円

〔 〕内は20人以上の団体割引料金

**渋谷区立松濤美術館**

渋谷区松濤2-11-14 TEL.165-9121 (平成3年1月から3165-9121)

渋谷駅下車 徒歩15分 神泉駅下車 徒歩5分

日本洋画壇の鬼才、海老原喜之助の画業を回顧する「特別展 海老原喜之助—その生涯と作品—」を開催いたします。

海老原喜之助は明治37年(1904)、鹿児島市に生まれました。18才で上京し、翌年には渡仏。藤田嗣治に師事し、エコール・ド・パリの新進気鋭の画家として注目を集めています。30才で帰国し、翌年独立美術協会の会員に迎えられますが、独立展への初めての出品作である「曲馬」は、我が国の洋画壇に新風を吹き込むものとして大きな反響を呼びました。戦後は人吉・熊本に居を構えて話題作を次々に発表し、多くの賞に輝いています。晩年は逗子市に居を移し、なお意欲的な製作を続けました。

海老原喜之助には、日常の中からモチーフを拾いあげて、そこに時代性を反映させた作品が多くみられますが、彼は常に前向きな姿勢で時代に向き合い、その熱い心情を絵に表現した画家でした。彼の描きだす形態は、極度に単純化されながら力強いリアリテをもっており、そこには、彼独特のエスプリと詩情が溢れています。

この展覧会は、生涯の各時期を代表する油絵71点とテッサン・版画・絵付け陶器等22点によってその画風の展開をたどり、同時に豊富な写真パネルも合わせ展示して、作品と生きざまの両面から、その魅力を探ろうとするものです。本年は画家の没後20年にあたりますが、これを期に、海老原芸術の素晴らしさをご鑑賞いただければ幸いです。

#### ■講演会

1990年12月15日土 午後2時~3時30分

「海老原喜之助・生涯と芸術」

講師：針生一郎〔美術評論家〕

#### ■映画会

1990年12月16日日 午後2時~3時

「マチス」「クレーとミュンヘン一揆」

1991年1月20日日 午後2時~3時

「キュービズムとモダニズム」「未来派」

#### ■美術相談

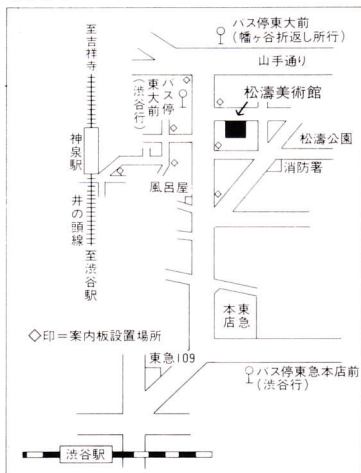
1990年12月16日日 午後1時~午後4時

講師：宮田翁輔〔洋画〕、戸田康一〔日本画〕

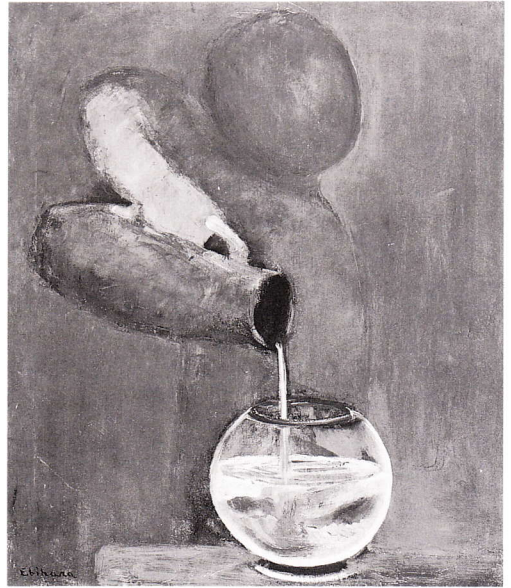
1991年1月15日火 午後1時~午後4時

講師：西嶋俊親〔洋画〕、遠藤原三〔洋画〕

#### 案内図



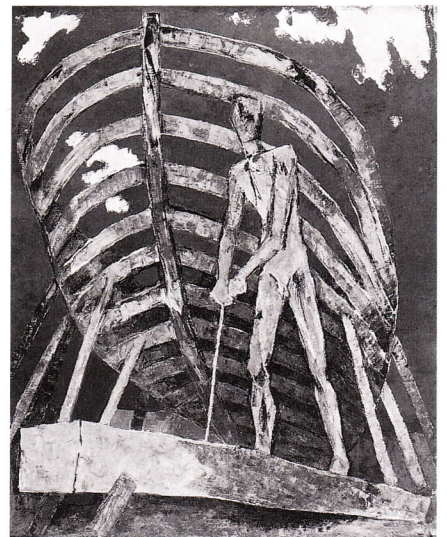
「雨の日」1963 東京国立近代美術館蔵



「金魚鉢と少年」1937



「雪山と樵」1930 愛知県文化会館美術館蔵



「船を造る人」1954 北九州市立美術館蔵